

インド学仏教史専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
インド学特論Ⅰ	祭式文献講読 ウパ グ・サウシュラヴァサの 物語	2	西村 直子	1学期	木	5	インド学特論Ⅰ
インド学特論Ⅱ	祭式文献講読	2	西村 直子	2学期	木	5	インド学特論Ⅱ
インド仏教史特論Ⅰ	Grags pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原 典講読	2	桜井 宗信	1学期	火	2	インド仏教史特論Ⅰ
インド仏教史特論Ⅱ	Grags pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原 典講読	2	桜井 宗信	2学期	火	2	インド仏教史特論Ⅱ
インド学仏教史特論Ⅰ	サンスクリット文献『唯 識三十頌』安慧釈講読	2	佐久間 秀範	集中(2学期)			インド学特論Ⅲ
インド学研究演習Ⅰ	インド哲学文献研究	2	西村 直子	1学期	火	5	インド学研究演習Ⅰ
インド学研究演習Ⅱ	インド哲学文献研究	2	西村 直子	2学期	火	5	インド学研究演習Ⅱ
インド仏教史研究演習Ⅰ	梵蔵漢対照による『俱 舎論』の講読	2	桜井 宗信	1学期	月	3	インド仏教史研究演習 Ⅰ
インド仏教史研究演習Ⅱ	梵蔵漢対照による『俱 舎論』の講読	2	桜井 宗信	2学期	月	3	インド仏教史研究演習 Ⅱ

科目名：インド学特論 I / Indological Studies (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 5 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：西村 直子（准教授）

講義コード：LM14501， 科目ナンバリング：LGH-PHI601J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：インド学特論 I 】

1. 授業題目：

祭式文献講読 ウパグ・サウシュラヴァサの物語

2. Course Title (授業題目)：

Vedic literature. “The legend of Upagu Sauśravasa”

3. 授業の目的と概要：

本講義では『ジャイミニヤー・ブラーフマナ』III 199–202 (B.C. 650 頃以降) に採録される「ウパグ・サウシュラヴァサの物語」を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Raghu Vira–Lokesh Chandra が校訂した Jaiminiya-Brāhmaṇa をテキストとして、Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo–Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student, Delbrück: Altindische Syntax 等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students will read Jaiminiya-Brāhmaṇa III 199–202 “the legend of Upagu Sauśravasa”. The course provides students with essential discipline in Indian philology. It also help students learn about grammar, vocabulary, and syntax of Sanskrit as well as the Veda.

5. 学習の到達目標：

ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し、ヴェーダの散文が読めるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

By the end of this course, students will be able to

1. acquire fundamental skills of philological study through with reading of the Brāhmaṇa.
2. achieve essential knowledge to understand the origin of religion, culture, and language in India.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション

(テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)

2 Jaiminiya-Brāhmaṇa III 199–202 (1)

3 同 (2)

4 同 (3)

5 同 (4)

6 同 (5)

7 同 (6)

8 同 (7)

9 同 (8)

10 同 (9)

11 同 (10)

12 同 (11)

13 同 (12)

14 同 (13)

15 同 (14)

8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%)，授業で示される理解度 (70%)

9. 教科書および参考書：

Jaiminiya-Brāhmaṇa (Ed. Raghu Vira–Lokesh Chandra); Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo–Aryan Morphology, Macdonell: Vedic Grammar for Student; Delbrück: Altindische Syntax; Whitney: Sanskrit Grammar 等。

10. 授業時間外学習：

授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度のスピードで読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business

12. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド学特論Ⅱ／ Indological Studies(Advanced Lecture)II

曜日・講時：後期 木曜日 5講時

semester：2学期， 単位数：2

担当教員：西村 直子（准教授）

講義コード：LM24502， 科目ナンバリング：LGH-PHI602J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：インド学特論Ⅱ】

1. 授業題目：

祭式文献講読

2. Course Title (授業題目)：

Vedic literature. Atharvaveda.

3. 授業の目的と概要：

本講義では、『アタルヴァヴェーダ Atharvaveda』VIII 7（薬草讃歌）およびIX 8（治病呪法讃歌）を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Roth-Whitney が校訂したテキストを用い、Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student, Delbrück: Altindische Syntax等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students will read Atharvaveda VIII 7 and IX 8. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge in Indian philological study with MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL: Vedic Grammar for Student, DELBRÜCK: Altindische Syntax, Bloomfield: Vedic Concordance, etc.

5. 学習の到達目標：

アタルヴァヴェーダ原典の講読を通じて、後の医学およびタントリズムにも連なるヴェーダの呪法的一端に触れ、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

By the end of this course, students will be able to

1. acquire fundamental skills of philological study through with reading of the Atharvaveda-Saṁhitā.
2. achieve essential knowledge to understand the origin of religion, culture, and language in India.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション

(テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)

2-8 Atharvaveda VIII 7

9-15 Atharvaveda IX 8

8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%)， 授業で示される理解度 (70%)

9. 教科書および参考書：

Atharva Veda Saṁhitā (Ed. R. Roth-W.D. Whitney); MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL, Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK, Altindische Syntax; WHITNEY, Sanskrit Grammar; BLOOMFIELD: Vedic Concordance, etc.

10. 授業時間外学習：

授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではできるだけ多く読み進めることを目標にする。受講者は単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。十分な予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド仏教史特論 I / History of Indian Buddhism(Advanced Lecture)I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

Semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LM12206， 科目ナンバリング：LGH-PHI603J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：インド仏教史特論 I 】

1. 授業題目：

Grags pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原典講読

2. Course Title (授業題目)：

rGyud kyi mñon par rtogs pa of Grags pa rgyal mtshan : reading

3. 授業の目的と概要：

チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の管長を務めた Grags pa rgyal mtshan の代表作の 1 つ『タントラ現観』(rGyud kyi mñon par rtogs pa) の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

By intensive reading of the rGyud kyi mñon par rtogs pa, which is one of the masterpiece of Grags pa rgyal mtshan (the third of the Five Venerable Masters of Sa skya pa), this course helps students learn about basic knowledge and theory of the Tantric Buddhism transmitted from India to Tibet, and deepen the ability of digesting native Tibetan Buddhist literatures in classical written Tibetan.

5. 学習の到達目標：

インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will acquire the fundamental knowledge of Indo-Tibetan Tantric Buddhism, and develop the skills of reading classical Tibetan Buddhist literatures.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『タントラ現観』講読-1-
2. 『タントラ現観』講読-2-
3. 『タントラ現観』講読-3-
4. 『タントラ現観』講読-4-
5. 『タントラ現観』講読-5-
6. 『タントラ現観』講読-6-
7. 『タントラ現観』講読-7-
8. 『タントラ現観』講読-8-
9. 『タントラ現観』講読-9-
10. 『タントラ概論』講読-10-
11. 『タントラ現観』講読-11-
12. 『タントラ現観』講読-12-
13. 『タントラ現観』講読-13-
14. 『タントラ現観』講読-14-
15. 『タントラ現観』講読-15-

8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み (100%)

9. 教科書および参考書：

rGyud kyi mñon par rtogs pa Rin po cheñi ljon śiñ, 『Sa skya 派全書』Vol. 3 (東洋文庫刊), pp. 1-70.

10. 授業時間外学習：

予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。

科目名：インド仏教史特論Ⅱ／ History of Indian Buddhism(Advanced Lecture)II

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

semester：2 学期， 単位数：2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LM22204， 科目ナンバリング：LGH-PHI604J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：インド仏教史特論Ⅱ】

1. 授業題目：

Glags pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原典講読

2. Course Title (授業題目)：

rGyud kyi mñon par rtogs pa of Glags pa rgyal mtshan : reading

3. 授業の目的と概要：

チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の管長を務めた Glags pa rgyal mtshan の代表作の1つ『タントラ現観』(rGyud kyi mñon par rtogs pa)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

By intensive reading of the rGyud kyi mñon par rtogs pa, which is one of the masterpiece of Glags pa rgyal mtshan (the third of the Five Venerable Masters of Sa skya pa), this course helps students learn about basic knowledge and theory of the Tantric Buddhism transmitted from India to Tibet, and deepen the ability of digesting native Tibetan Buddhist literatures in classical written Tibetan.

5. 学習の到達目標：

インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will acquire the fundamental knowledge of Indo-Tibetan Tantric Buddhism, and develop the skills of reading classical Tibetan Buddhist literatures.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『タントラ現観』講読-1-
2. 『タントラ現観』講読-2-
3. 『タントラ現観』講読-3-
4. 『タントラ現観』講読-4-
5. 『タントラ現観』講読-5-
6. 『タントラ現観』講読-6-
7. 『タントラ現観』講読-7-
8. 『タントラ現観』講読-8-
9. 『タントラ現観』講読-9-
10. 『タントラ概論』講読-10-
11. 『タントラ現観』講読-11-
12. 『タントラ現観』講読-12-
13. 『タントラ現観』講読-13-
14. 『タントラ現観』講読-14-
15. 『タントラ現観』講読-15-

8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み (100%)

9. 教科書および参考書：

rGyud kyi mñon par rtogs pa Rin po cheñi ljon śiñ, 『Sa skya 派全書』Vol.3 (東洋文庫刊), pp.1-70.

10. 授業時間外学習：

予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。

科目名：インド学仏教史特論Ⅰ／ Indological Studies and History of indian Buddhism (Advanced)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中 (2学期), 単位数：2

担当教員：佐久間 秀範 (非常勤講師)

講義コード：LM98818, 科目ナンバリング：LGH-PHI605J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：インド学特論Ⅲ】

1. 授業題目：

サンスクリット文献『唯識三十頌』安慧釈講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading the “Triṃśikā Vijñaptimātratāsiddhi” with the commentary by Sthiramati in the Saṃskṛt language

3. 授業の目的と概要：

『唯識三十頌』は、瑜伽行者つまりはヨーガの実践者達の打ち立てた唯識思想を理論体系とした完成したと言われているヴァスバンドゥの最晩年の著作である。彼はこの著作の前に『唯識二十論』を書き記し、しかもそれに自註を残している。残念ながら『唯識三十頌』には自註がない。後代、註釈家スティラマティがこれに註釈を施している。『唯識三十頌』はヨーガの実践修行を行っている修行者に対して唯識思想の神髄を説き示すために作られたと考えられるが、そのような視点がスティラマティにもあったのか否かを含めて、テキストを輪読する中で検証してゆく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students will learn the theories of Yogācāra-Vijñaptimātratā by means of reading the “Triṃśikā Vijñaptimātratāsiddhi” with the commentary by Sthiramati in Saṃskṛt language.

5. 学習の到達目標：

従来の唯識思想理解に対して、ヴァスバンドゥの立場と註釈家スティラマティの立場とが実践修行者の立場にどのくらい依拠しているかを探りながら、唯識理論を考え直すことが出来るようになることを目指す。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course is designed to help students get a full-length picture of the theories of Yogācāra-Vijñaptimātratā and deepen their interest in them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：『唯識三十頌』の位置づけを中心に説明する。
2. 『唯識三十頌』第2偈とスティラマティ注釈部分をサンスクリット語の意味を吟味しながら輪読する。
3. 『唯識三十頌』第2偈とスティラマティ注釈部分をサンスクリット語の意味を吟味しながら輪読する。
4. 『唯識三十頌』第2偈とスティラマティ注釈部分をサンスクリット語の意味を吟味しながら輪読する。
5. 『唯識三十頌』第3偈とスティラマティ注釈部分をサンスクリット語の意味を吟味しながら輪読する。
6. 『唯識三十頌』第3偈とスティラマティ注釈部分をサンスクリット語の意味を吟味しながら輪読する。
7. 『唯識三十頌』第3偈とスティラマティ注釈部分をサンスクリット語の意味を吟味しながら輪読する。
8. 『唯識三十頌』第4偈とスティラマティ注釈部分をサンスクリット語の意味を吟味しながら輪読する。
9. 『唯識三十頌』第4偈とスティラマティ注釈部分をサンスクリット語の意味を吟味しながら輪読する。
10. 『唯識三十頌』第4偈とスティラマティ注釈部分をサンスクリット語の意味を吟味しながら輪読する。
11. 『唯識三十頌』第5偈とスティラマティ注釈部分をサンスクリット語の意味を吟味しながら輪読する。
12. 『唯識三十頌』第5偈とスティラマティ注釈部分をサンスクリット語の意味を吟味しながら輪読する。
13. 『唯識三十頌』第5偈とスティラマティ注釈部分をサンスクリット語の意味を吟味しながら輪読する。
14. 『唯識三十頌』第2偈から第5偈とスティラマティ注釈部分に見られた八識構造を総括的に整理し直し、唯識思想の中でどのような位置づけになるか考察する。
15. 『唯識三十頌』第2偈から第5偈とスティラマティ注釈部分に見られた内容を、唯識思想の中で分析し直し整理してまとめとする。

8. 成績評価方法：

出席率と各時間に輪読する各学生の習熟度により総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書はレヴィ校訂のサンスクリット語テキストを用いる。参考書については、各時間内に紹介する。

10. 授業時間外学習：

サンスクリット語を辞書で調べ、ある程度の準備をして望み、サンスクリット語の持つ意味やニュアンスを授業時間内に考える下地を作っておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

12. その他：

サンスクリット語テキストを読み込む必要上、サンスクリット語初級文法の既修者である事を履修の要件とする。さらに古典チベット語や仏教漢文にもある程度の親しみがあることが望まれる。

科目名：インド学研究演習 I / Indological Studies (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：西村 直子（准教授）

講義コード：LM12504， 科目ナンバリング：LGH-PHI606J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：インド学研究演習 I 】

1. 授業題目：

インド哲学文献研究

2. Course Title (授業題目)：

Indian Philosophical Literature

3. 授業の目的と概要：

本講義では、『リグヴェーダ R.gveda』 X 14 および 15 のヤマ Yama 讃歌を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Aufrecht が校訂したテキストを用い、Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student, Delbrück: Altindische Syntax 等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course, students will read R.gveda X 14 and 15 mainly based on the text edited by Aufrecht. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge in Indian philological study with Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL: Vedic Grammar for Student, DELBRÜCK: Altindische Syntax, etc.

5. 学習の到達目標：

リグヴェーダ原典の講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

By the end of this course, students will be able to

1. acquire fundamental skills of philological study through with reading of the R.gveda.
2. achieve essential knowledge to understand the origin of religion, culture, and language in India.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)

2 R.gveda X 14 (1)

3 同 (2)

4 同 (3)

5 同 (4)

6 同 (5)

7 同 (6)

8 R.gveda X 15 (1)

9 同 (2)

10 同 (3)

11 同 (4)

12 同 (5)

13 同 (6)

14 同 (7)

15 同 (8)

8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%)， 授業で示される理解度 (70%)

9. 教科書および参考書：

R.gveda-Samhitā (Ed. Aufrecht); Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL, Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK, Altindische Syntax; WHITNEY, Sanskrit Grammar, etc.

10. 授業時間外学習：

授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではできるだけ多く読み進めることを目標にする。受講者は単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。十分な予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド学研究演習Ⅱ／ Indological Studies(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

semester：2学期， 単位数：2

担当教員：西村 直子（准教授）

講義コード：LM22504， 科目ナンバリング：LGH-PHI607J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：インド学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

インド哲学文献研究

2. Course Title (授業題目)：

Indian Philosophical Literature

3. 授業の目的と概要：

本講義では『ブリハッド・アーラニヤカ・ウパニシャッド』第2巻(B.C. 600頃以降)に採録される「ヤージュニャヴァルキヤと妻マイトレーイーとの対話」を取り上げ、第4巻と比較しながら読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student, Delbrück: Altindische Syntax等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students will read Br. had-Āraṇyaka-Upaniṣad II “the Dialogue between Yājñavalkya and his wife, Maitreyī”. The course provides students with essential discipline in Indian philology. It also help students learn about grammar, vocabulary, and syntax of Sanskrit as well as the Veda.

5. 学習の到達目標：

当時の祭官達の議論の在り方を理解すると共に、ヴェーダの散文が読めるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

By the end of this course, students will be able to

1. acquire fundamental skills of philological study through with reading of the Upaniṣad.
2. achieve essential knowledge to understand the origin of religion, culture, and language in India.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション

(テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)

2 Br. had-Āraṇyaka-Upaniṣad II, 4 (1)

3 同 (2)

4 同 (3)

5 同 (4)

6 同 (5)

7 同 (6)

8 同 (7)

9 同 (8)

10 同 (9)

11 同 (10)

12 同 (11)

13 同 (12)

14 同 (13)

15 同 (14)

8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%)，授業で示される理解度 (70%)

9. 教科書および参考書：

V. P LIMAYE and R. D. VADEKAR eds., Gandhi Memorial Edition. Eighteen Principal Upaniṣads. Vol. I; MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL: Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK: Altindische Syntax; WHITNEY: Sanskrit Grammar 等。

10. 授業時間外学習：

授業は、最初はゆっくり進めるが、後半では毎回7～9詩節読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

12. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド仏教史研究演習 I / History of Indian Buddhism(Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LM11304， 科目ナンバリング：LGH-PHI608J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：インド仏教史研究演習 I 】

1. 授業題目：

梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2. Course Title (授業題目)：

Abhidharmakośa of Vasubandhu : reading

3. 授業の目的と概要：

Vasubandhu (世親) の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。

この授業では前年に引き続き、同書第 2 章(「根品」)の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢 3 書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The Abhidharmakośa by Vasubandhu is very famous as an outline of the thought of the Sarvāstivādin in brief and critical manner, and it is necessary not only for grasping the Sarvāstivādin's way of thinking but also for understanding the thought of Mahāyānic Buddhism such as the Yogācāravāda.

In this course continuing from the last term, we will be reading Sanskrit, Tibetan and Chinese texts of the Abhidharmakośa (Indriyanirdeśa), which serves students to understand Vasubandhu's thought and to get a basic skill on studying Indian Buddhist Literatures, i.e. the comparative study of Skt.-Tibetan-Chinese texts.

5. 学習の到達目標：

基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students deepen the ability of reading basic Buddhist literatures, and obtain correct knowledge about some fundamental and important technical terms on Indian Buddhism.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読-1-
2. 『俱舎論』講読-2-
3. 『俱舎論』講読-3-
4. 『俱舎論』講読-4-
5. 『俱舎論』講読-5-
6. 『俱舎論』講読-6-
7. 『俱舎論』講読-7-
8. 『俱舎論』講読-8-
9. 『俱舎論』講読-9-
10. 『俱舎論』講読-10-
11. 『俱舎論』講読-11-
12. 『俱舎論』講読-12-
13. 『俱舎論』講読-13-
14. 『俱舎論』講読-14-
15. 『俱舎論』講読-15-

8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み (100%)

9. 教科書および参考書：

用いる基本資料は次の通り：

- ・ 梵文原典：Abhidharmakośa-bhāṣya of Vasubandhu, Ed. by P.Pradhan, Patna, 1967.
- ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。
- ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎論』（真諦訳）。

※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

10. 授業時間外学習：

予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

12. その他：

「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。

科目名：インド仏教史研究演習Ⅱ／ History of Indian Buddhism(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：2学期， 単位数：2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LM21305， 科目ナンバリング：LGH-PHI609J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：インド仏教史研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2. Course Title (授業題目)：

Abhidharmakośa of Vasubandhu : reading

3. 授業の目的と概要：

Vasubandhu (世親) の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。

この授業では前年に引き続き、同書第2章(「根品」)の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The Abhidharmakośa by Vasubandhu is very famous as an outline of the thought of the Sarvāstivādin in brief and critical manner, and it is necessary not only for grasping the Sarvāstivādin's way of thinking but also for understanding the thought of Mahāyānic Buddhism such as the Yogācāravāda.

In this course continuing from the last term, we will be reading Sanskrit, Tibetan and Chinese texts of the Abhidharmakośa (Indriyanirdeśa), which serves students to understand Vasubandhu's thought and to get a basic skill on studying Indian Buddhist Literatures, i.e. the comparative study of Skt.-Tibetan-Chinese texts.

5. 学習の到達目標：

基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students deepen the ability of reading basic Buddhist literatures, and obtain correct knowledge about some fundamental and important technical terms on Indian Buddhism.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読-1-
2. 『俱舎論』講読-2-
3. 『俱舎論』講読-3-
4. 『俱舎論』講読-4-
5. 『俱舎論』講読-5-
6. 『俱舎論』講読-6-
7. 『俱舎論』講読-7-
8. 『俱舎論』講読-8-
9. 『俱舎論』講読-9-
10. 『俱舎論』講読-10-
11. 『俱舎論』講読-11-
12. 『俱舎論』講読-12-
13. 『俱舎論』講読-13-
14. 『俱舎論』講読-14-
15. 『俱舎論』講読-15-

8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み(100%)

9. 教科書および参考書：

用いる基本資料は次の通り：

- ・ 梵文原典：Abhidharmakośa-bhāṣya of Vasubandhu, Ed. by P.Pradhan, Patna, 1967.
- ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。
- ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎論』（真諦訳）。

※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

10. 授業時間外学習：

予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

12. その他：

「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。

